

令和4年4月7日

## 入学式（壇上からの想い）

満開の桜の中、今年度の入学式が無事挙行できた。  
着慣れない制服と緊張感に身を包み、堂々と入場してきた新入生。

呼名では、全員とアイコンタクトができた。

「ハイ」という返事のなかに、「甲子園に出るぞ」「大学進学します」「楽しい高校生活を送りたい」など、身体全体から希望があふれ出ていた。  
その微笑ましい姿に口元がだいぶ緩んでしまい、マスクのありがたさを感じた。

学校の代表者としては、本校生として、「損か得か」だけでなく、誇り高い行動への期待を伝えた。また、個々それぞれの未来への躍進を期待し、「未来創造学園」として全力でサポートすることを約束した。

終盤、やや震える手で宣誓書を読み上げる新入生代表の生徒を前に、初心を忘れていけないのはこちらだと認識させられた。  
3年後、成長した241名全員の進路実現と新たな未来に向かう誇らしい笑顔を送り出すことを誓う。

**記者手帳**

○…世界中の多種多様な植物を栽培し、展示する筑波実験植物園。その一角では、キャベツやレタスなどの食用植物も育てている。「葉や芽を食べる野菜は開花前に収穫するため、花を見る機会は少ない。ここで見て楽しんでみたい」と同園名誉研究員、岩科司さんは話す。

**野菜の花を楽しんで**

中でもキャベツなどのアブラナ科は、花びらが十字につき特徴があり、他の科と見分けが付きやすいという。「いろんな花と見比べ、面白いと思ってももらえたらうれしい」（松）

○…「途中で（視覚障害者に）なった人が来ている」と語るのは、県視覚障害者協会の坂場篤視理事長。協会は、見えにくい、見えない人が気軽に来ることができる当事者相談会「ふれあいサロン」を昨年4月にスタート。毎月1回で利用者はまだ少ないが、地域で生活する理事7人が対応している。「日常生活で外出や仕事、家事にだんだんと不便を感じていく人もいて、最初は周囲に言い出せなかったりする」。経験を生かし、助言したり、共に解決策を探ったりしている。（鳥）

○…「生徒たちの返事の中に、楽しい高校生活を送りたいなど希望があふれ出ていた」と話すのは、県立藤代高校に今春着任した秋山克巳校長。入学式で新入生の表情や姿から強く感じ取れたという。

学校内での勉学やスポーツだけでなく、生徒たちの多彩な活動も知ってもらおうと、「家庭や地域にも広く発信していきたい」と力を込める。一人一人に「誇り高い行動」を期待するとともに、生徒の成長へ全力でサポートすることを誓った。（羽）

(2022.4.22)

